

令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただきため、学校が各調査の結果や各調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、各調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにし、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 「全国学力・学習状況調査」の調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 「中学生チャレンジテスト」の調査の目的

- (1) 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
加えて、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。
- (2) 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。
- (3) 学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- (4) 生徒一人ひとりが、自らの学習到達状況を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。

1 全国学力・学習状況調査

※中学校理科はICT端末等を用いた、文部科学省CBTシステム（MEXCBT）によるオンライン方式（以下、「CBT」【=Computer Based Testing】とする）で実施。

学年		生徒数 (人)	平均正答率(%)		平均無解答率(%)	
			国語	数学	国語	数学
3 年	学校	59	57	52	6.9	7.9
	大阪市	—	52	46	6.8	11.2
4月17日	全国	—	54.3	48.3	6.7	10.6

	平均IRTスコア
	理科
学校	536
大阪市	489
全国	503

※IRTとは、国際的な学力調査等で採用されているテスト理論です。

この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較することができます。

※IRTスコアとはIRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

2 中学生チャレンジテスト

学年		生徒数 (人)	平均点(点)					平均無解答率(%)				
			国語	社会	数学	理科※	英語	国語	社会	数学	理科※	英語
3 年	学校	56	72.7	59.3	60.4	55.1	55.7	4.3	3.6	7.9	5.7	5.8
	大阪市	—	64.8	51.5	54.3	46.5	54.4	6.1	5.8	11.1	9.4	6.5
	大阪府	—	64.2	51.2	53.9	46.0	53.2	6.8	6.5	12.1	11.0	7.4

※ 3年生の理科はB問題を選択

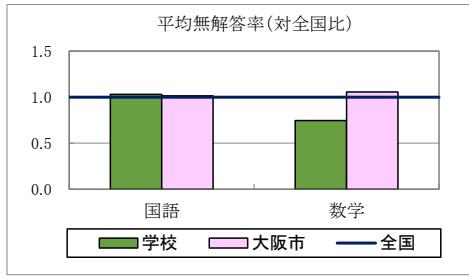
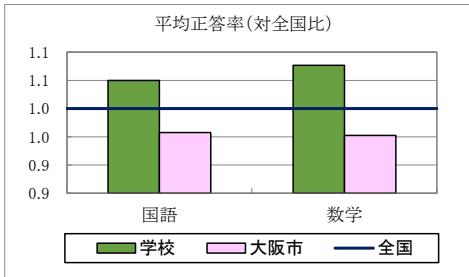
令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【全 体】

	平均正答率(%)	
	国語	数学
学校	57	52
大阪市	52	46
全国	54.3	48.3

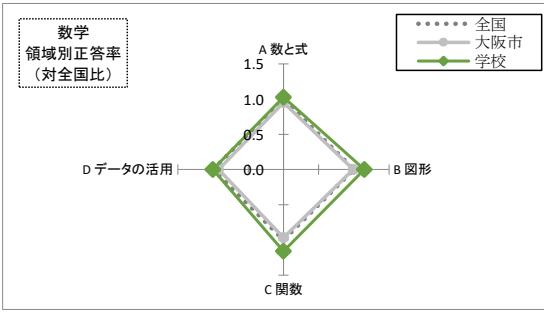
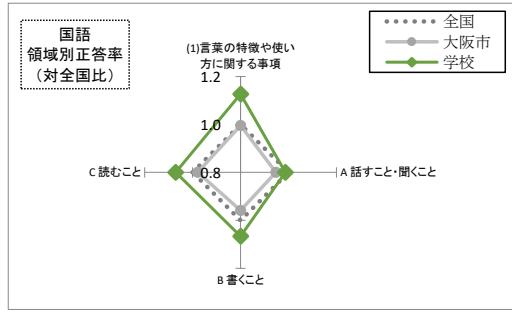
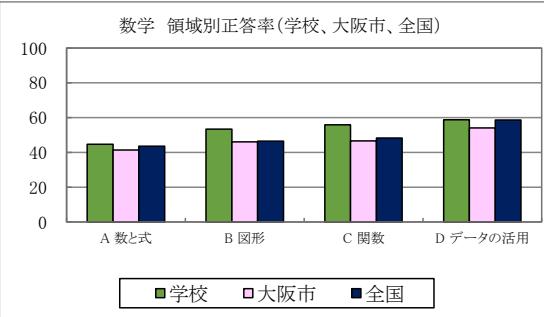
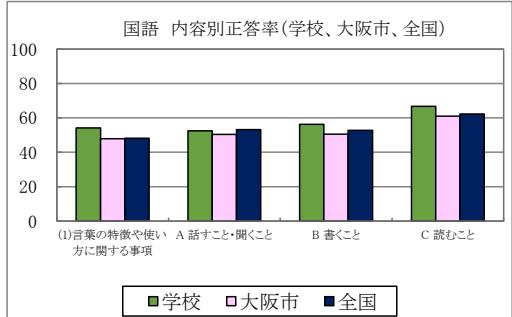
平均無解答率(%)	
国語	数学
6.9	7.9
6.8	11.2
6.7	10.6



【国 語】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方にに関する事項	2	54.2	47.9	48.1
(2)情報の扱い方にに関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	0			
A 話すこと・聞くこと	4	52.5	50.4	53.2
B 書くこと	5	56.3	50.6	52.8
C 読むこと	3	66.7	61.0	62.3

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と式	5	44.7	41.4	43.5
B 図形	4	53.4	46.1	46.5
C 関数	3	55.9	46.6	48.2
D データの活用	3	58.8	54.0	58.6

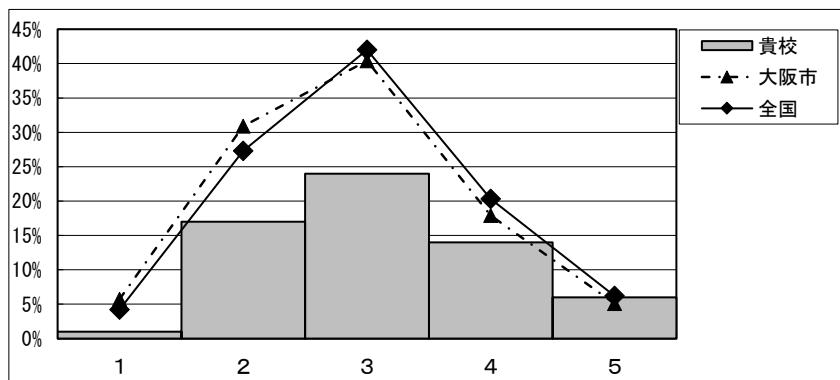
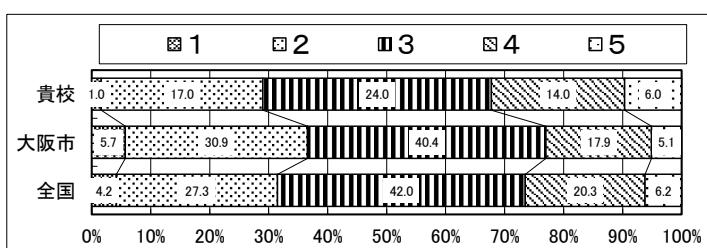


令和7年度 南港南中学校のあゆみ
—結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

全国学力・学習状況調査 教科に関する調査より

【理 科】

	平均IRTスコア
学校	536
大阪市	489
全国	503



令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

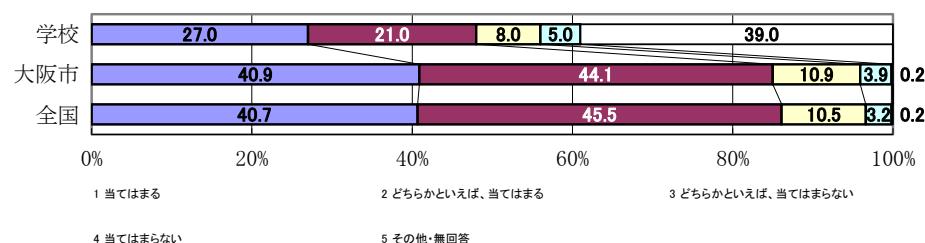
生徒質問より

■ 1 ■ 2 □ 3 □ 4 □ 5 ■ 6 ■ 7 ■ 8

質問番号
質問事項

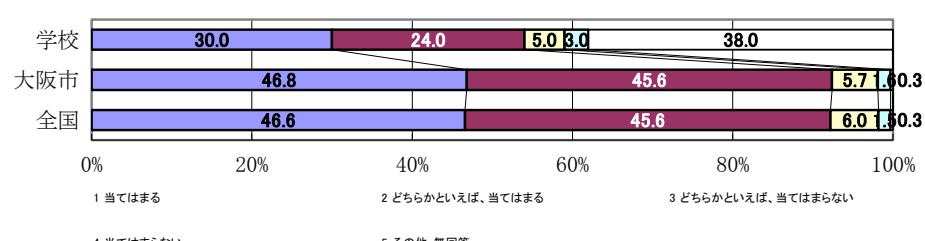
5

自分には、よいところがあると思いますか



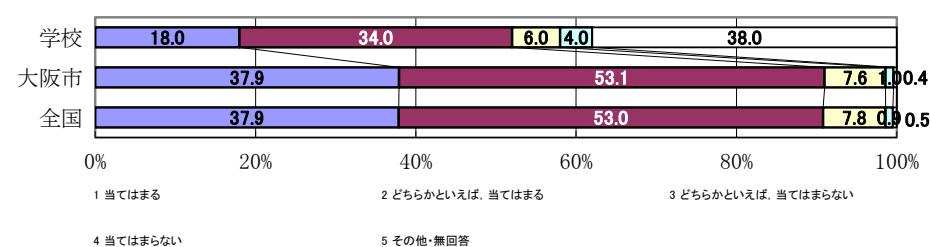
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



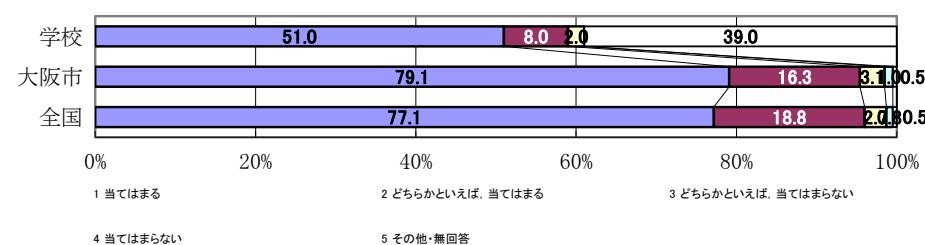
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



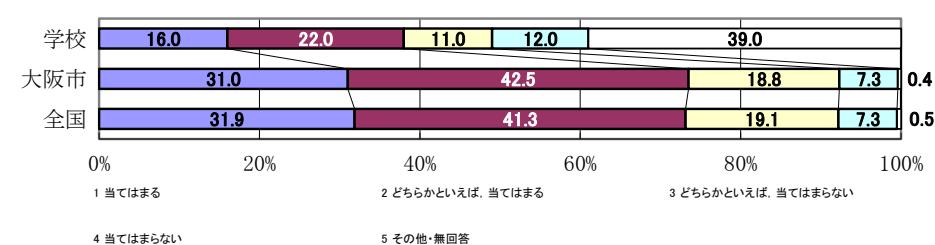
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



10

困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

学校質問より

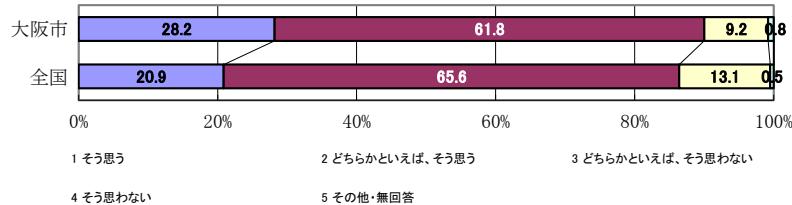
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか

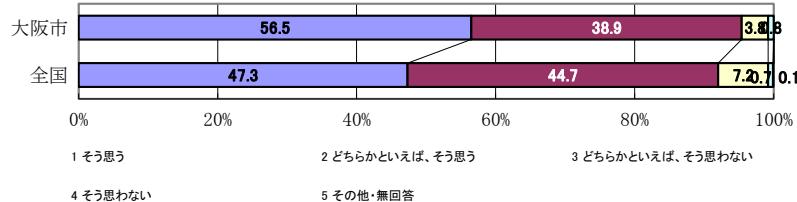
学校 「そう思う」を選択



8

調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

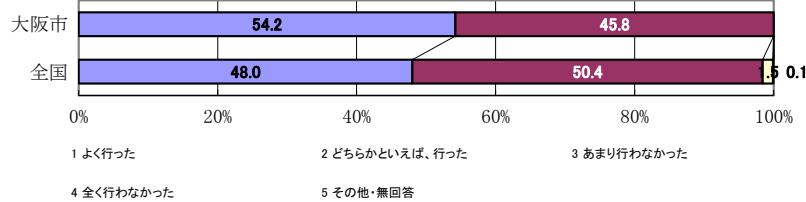
学校 「そう思う」を選択



9

調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか

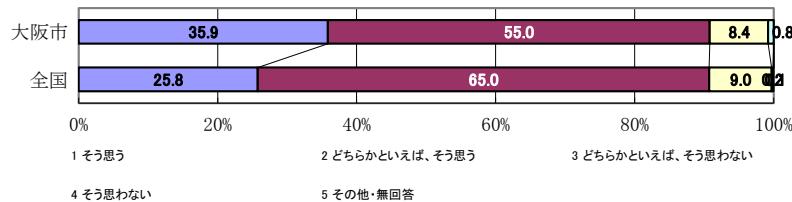
学校 「よく行った」を選択



27

調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか

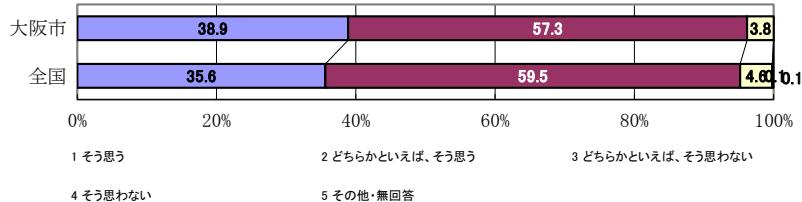
学校 「そう思う」を選択



28

調査対象学年の生徒は、授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組めていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



令和7年度 南港南中学校のあゆみ —結果概要とその分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について—

調査結果から

【全国学力・学習状況調査】

〈国語〉

〈成果〉

令和7年度全国学力・学習状況調査において、国語科は全国平均よりも高い正答率を出すことができた。文章読解の内容整理する問題の正答率が高かった。これは授業において一文一文を丁寧に読む練習をすることで内容をつかむ力が養われたものと考えられる。問題形式からは、選択式の正答率が非常に高く、本文に書かれている内容を理解し矛盾する内容や極端な内容を含む選択肢が理解できていることからも文章読解の内容理解の深さがみられる。

〈課題〉

論述問題からは自身の考えを表現することが苦手なことを伺えた。今後は表現すること、書くことに注力して学習を進めていきたい。あわせて、漢字や知識問題の正答率が少し低いと感じた。知識は一朝一夕で身につくものではないため、粘り強く定期的な漢字、知識の学習・確認が必要であり、生徒自身で学習できる環境を整えることが課題であると感じた。

〈数学〉

〈成果〉

- ・各々の苦手克服に向けて、1人1台端末を活用した復習を定期的に行なった。その結果、全分野において全国平均を上回った。
- ・相手に上手く説明できる生徒が増えたが、全体としては、説明文や証明問題に対する苦手意識が拭えず、全国平均を下回っている問題もあった。
- ・標準偏差が全国平均を上回っており、数学得意とする生徒とそうでない生徒の学力差が大きいことが課題である。

〈課題〉

今後も、既習内容の復習に取り組み、各生徒が苦手分野を自分自身で見つけて克服し学力の向上を図る。また、新しく学ぶ内容に関しても個人の習熟に合った指導ができるよう、机間観察の徹底と学び合い教えあう学習の時間を確保し、主体的・対話的で深い学びの実現に努めていく。

〈理科〉

〈成果〉

・授業では、必ずペアワーク、もしくはグループワークを取り入れ、活発な言語活動がすすむよう意識してきた。その際に、学習者用端末を利用することもあり、疑問に感じたことなどをブラウザなどで調べ、理解を深めることをすすめてきた。そうした学習活動を通して、事象が起こる理由などを考察する力が身についていることが、今回のIRTスコアの高さから見られる。

〈課題〉

・大阪市だけでなく、全国の平均スコアよりも高い値を示したことを受け、これまでの授業形態を継続し、精査した情報をもとに考えを形成し知識を相互に関連付けてより深く理解できる力の向上を目指していく必要があると考える。

【チャレンジテスト】

○9年生

〈国語〉

〈成果〉府平均64.2点に対し本校72.7点と大きく上回り、特に「読むこと」「書くこと」で得点が高いことに起因すると考えられる。記述式問題でも府平均よりも高い数値となっている。

〈課題〉「情報の扱い方」や「書くこと」の得点は府平均との差は小さく、今後いっそうの情報活用力や文章を読み取るときにその構成を意識し、語彙を増やすことや生徒が文章を書く際に客観的に見直す力の向上を目指す。

〈社会〉

〈成果〉府平均51.2点に対し本校59.3点で、地理・歴史ともに高得点であった。観点別に得点を見た場合には特に知識・技能について高得点が見られる。

〈課題〉記述式問題の得点差は小さく、観点別に得点を見た場合に思考・判断・表現の特典が府平均との差が小さく、論述力や表現力の向上のため、授業の中で社会的事象の意味や関連性を考察し、自分の言葉で説明する取り組みを進めることができると考える。

〈数学〉

〈成果〉府平均53.9点に対し本校60.4点で、全領域で府平均を上回る。特に「関数」「図形」で安定した得点を獲得している。

〈課題〉「データの活用」領域や記述式問題で伸びしろがあると考えられる。統計的思考力の強化や生徒が思考過程を言語化できるよう解答の論理的な流れや表現方法を理解する授業をすすめていく。

〈理科〉

〈成果〉府平均46.0点に対し本校55.1点と大きく上回り、「生命」「地球」領域で高得点を獲得している。また、観点別に獲得した得点を見た場合にも府平均と比較してもその点差の幅が大きく上回っていることが確認できる。

〈課題〉「粒子」の領域や記述式問題で得点差が小さい。問題を正確に読み取り、解答に必要な知識を整理し、具体的な理由や根拠をつけて説明する力の向上を図っていく。

〈英語〉

〈成果〉府平均53.2点に対し本校55.7点で、聞くこと・読むこと・書くことで府平均を上回る。

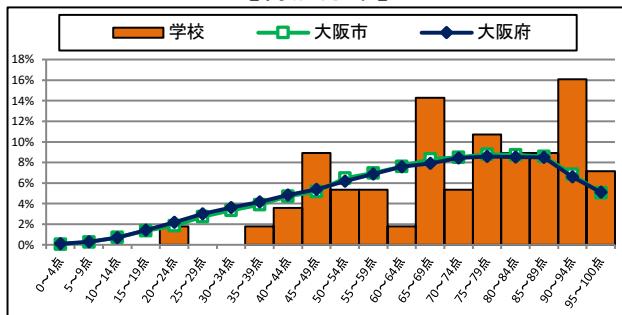
〈課題〉府平均との差が最も小さく、特に「話すこと」や記述式で課題が残る。発信型英語力の強化が必要。

大阪市立南港南中学校 令和7年度「中学生チャレンジテスト(3年生)」検証用グラフ

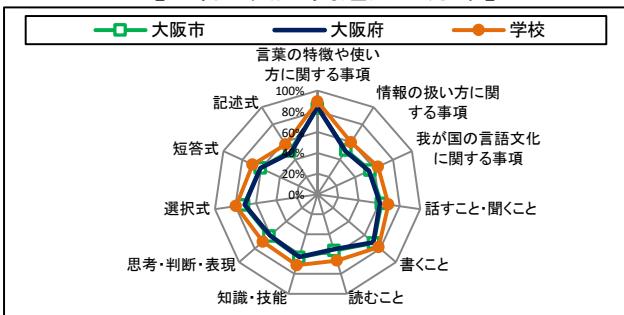
令和7年9月2日(火)実施

【国語】

【得点分布】

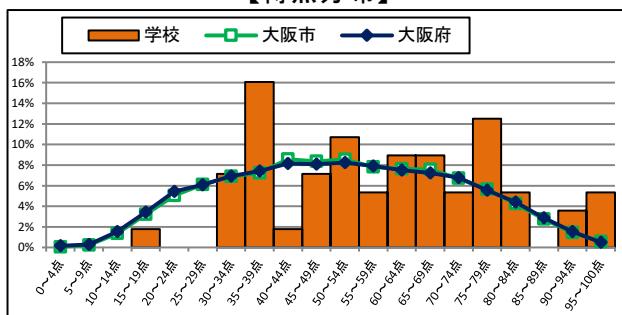


【内容・観点・問題別の分布】

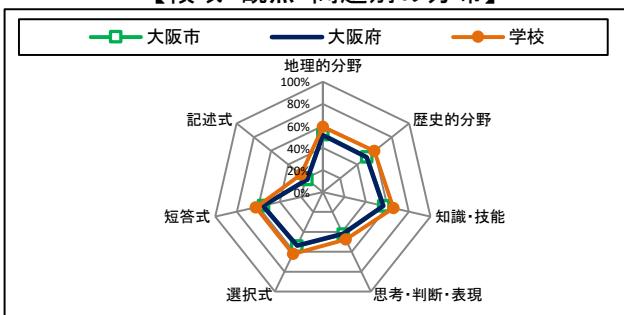


【社会】

【得点分布】

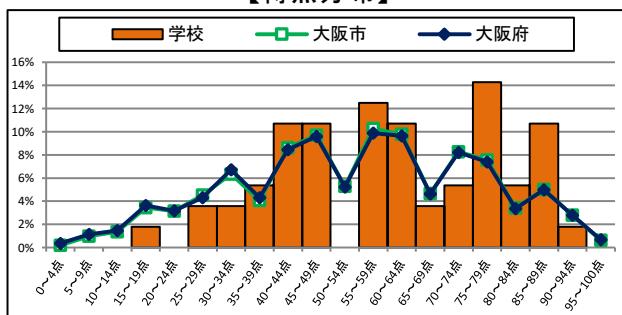


【領域・観点・問題別の分布】

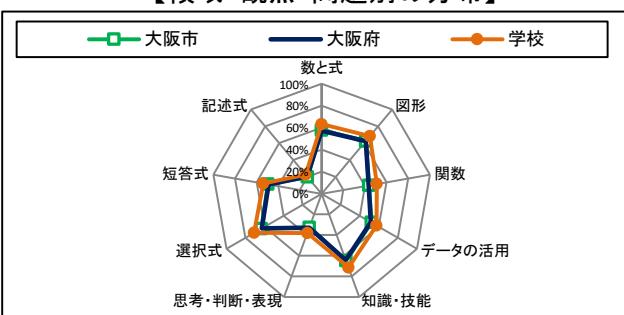


【数学】

【得点分布】

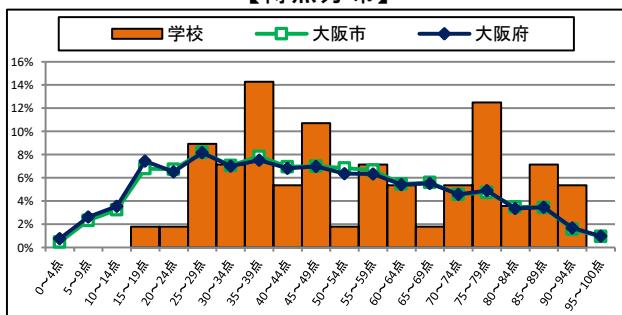


【領域・観点・問題別の分布】

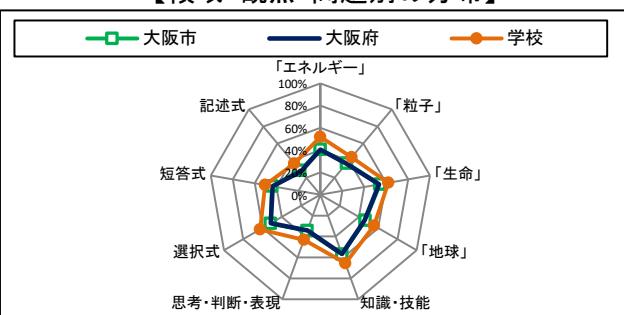


【理科 B】

【得点分布】

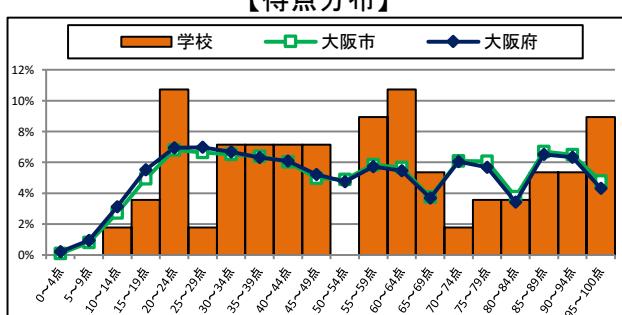


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

